

選ばれる企業は、はじめてる

SDGs

をビジネスに

Sustainable Development Goals

身近な企業による取り組みやアイデアが、意外にもSDGsに関係していることをご存知ですか？ 環境や社会問題に目を向けることは、地域貢献となり、社会から信頼を得ることができるのはもちろん、新たなビジネスチャンスに繋がります。

Pick up!

／はじめています／

1. 生分解性樹脂の普及により海洋汚染・土壌汚染のない社会の実現
2. プラスチックごみの処理・廃棄問題に焦点を当てつつ、ごみの削減に寄与する
3. 植物由来樹脂製品の耐熱成形事業・コンサルティングによる製品普及
4. 海外販路開拓および海外進出コンサルティング



バイオエックス株式会社

【本社】 ☎ 050-7116-8307 彦根市芹町9-10
 【野洲工場ラボラトリー】 ☎ 077-584-4086
 野洲市大篠原1610-11 日野精機株式会社 野洲工場内

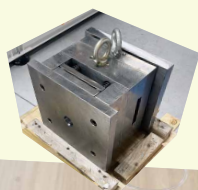
植物由来100%のプラスチック製品を製造・開発。約150℃までの耐熱性を確保することに成功し、実用化へ向けて普及に務める。併せて、ノウハウを活かした樹脂製品の製造や海外進出に関するコンサルなども行う。



代表取締役 よしだ ひろかず 吉田 浩一氏



100% PLAに耐熱性を持たせるため、試行錯誤の日々。2つの方法をもちいる“結晶化”の技術で、耐熱化に成功。電子レンジでの加熱にも耐える技術のおかげで、日常のさまざまな製品に転用が可能に。



現在の石油由来プラスチック製品に代わるカップやカトラリーといった、“新しい価値を持つ”様々な製品を開発。

サトウキビの搾りかすや、トウモロコシの非可食部分から抽出したデンプンを乳酸発酵させたプラスチック樹脂「PLA」。耐候性・耐油性・耐衝撃性に優れ、焼却時には水と二酸化炭素に分解され、土に埋めれば「土に還る」というPLA樹脂製品は、環境にも人間にもやさしいと話題を集めている。野洲に構える「バイオエックス株式会社」では、耐熱性の不足していたPLA製品に耐熱性を付加することに成功し、150℃まで耐えられる植物由来プラスチックを完成させた。次世代が誇れる社会を目指すため、現状の石油プラスチックが抱える問題に真摯に取

り組む同社の代表・吉田氏は、国際プラスチック条約の締結とともに、問題視されている廃棄プラスチックの問題にも取り組みたいと語る。従来の石油由来のプラスチックに代わる製品として、PLA製品をさらに普及させていきたいのだという。安心安全なPLA樹脂製品の可能性は無限大だ。現在は、志を同じくする企業と連携し、PLA樹脂を活用した食器やカトラリー、歯ブラシなどの製造・開発を進めているという。ゆくゆくは、すべてが滋養で完結する仕組みをつくり、「手を取り合って、“チーム滋養”の製品が完成できたらいいですね」と、目を輝かせた。

生分解性樹脂で安全なプラスチック
環境に配慮された安心な世界を実現へ